

シグマ研究委員会
昭和 56 年度第 6 回運営委員会議事録

日 時 昭和 56 年 10 月 30 日 (金) 13 : 30 ~ 17 : 30
場 所 原研本部第 7 会議室
出席者 中嶋 (法大) , 久武 (東工大) , 松延 (住友原工) ,
大竹 (富士) , 飯島 (NAIG) , 塚田 (日大) ,
更田 , 田中 , 五十嵐 , 菊池 (原研)
オブザーバ : 梶山 (東北大) , 松本 , 浅見 (原研)

配布資料

1. 昭和 56 年度第 5 回運営委員会議事録 (案)
2. Announcement of the NEANDC/NEACRP Specialists Meeting on Fast - Neutron Capture Cross Sections
3. Japanese List for INDC "L" and "U" Distribution
4. Japanese List for NEANDC "U" Distributions
5. CINDA distribution list for Japan
6. Japanese Nuclear Data Committee
7. JAERI Nuclear Data Center
8. 医学用核データ , 原子分子データに関するアンケート (用紙)
9. シグマ特別専門委員会内規
10. Announcement of the 3rd International Symposium on NEUTRON INDUCED REACTIONS, Smolenice, Czechoslovakia, June 21-25, 1982
11. 「第 20 回原子力総合シンポジウム」仮プログラム

議 事

1. 前回議事録確認

資料(1)により確認を行った。

2. 原子力総合シンポジウム報告

楢山氏より仮プログラム（資料（11））の説明があった。その中でシグマ委関係では「核燃料サイクルと核データ」を西村和明氏が話すことになったことが紹介された。

3. 2年報作成報告

松本氏より，編集担当者が10月29日に集って検討し，12月号掲載の予定で投稿することが報告された。

4. NEANDC/NEACRP Specialists' Meeting on Fast - Neutron Capture Cross Sections

田中氏より資料(2)の説明とともに，日本からの出席は未定と返事をしたことが報告された。また，九大神田氏が米国へ出張する際に都合がつけば出席してもらうことになっていること，原研核物2からは論文を提出する予定であることの説明があった。

5. 1981核データ研究会

浅見氏より，研究会の会場が変更になったこと，出席者の概数等について説明があった。研究会の規模はほぼ例年並みになる見込みである。

6. 事務局報告（五十嵐氏）

(1) 配布リストの改訂

INDC，NEANDC，CINDA の配布リスト（資料(3)～(5)）の改訂を行ったが，誤りなど気付いたことがあったら連絡して欲しいとの説明があった。また，このようなリストは毎年本委員会の直後に改訂したいとの説明があった。

(2) 医学用核及び原子分子データに関するアンケート調査の中間報告
（浅見氏）

ほぼ集計を終ったので，11月4日に「リクエスト・リスト作成のための会合」の幹事会を開いて今後の進め方について検討する旨の報告があった。

(3) 荷電粒子核データ・グループとの会合

荷電粒子核データ活動についての情報交換のため、北大の田中一氏を中心とするグループとの会合を11月12日に行うとの報告があった。

(4) 専門部会ワーキング・グループの来年度計画案の検討

専門部会及びWGの来年度計画について1～2カ月のうちに運営委で議論するため、各専門部会長、WGリーダーは検討しておいて欲しいとの説明があった。

(5) 人 事

運営委に、原研原子炉工学部から松浦祥次郎氏、動燃から白方敬章氏を加えることにしたいとの提案があり、了承された。なお、次の本委員会で正式に承認されるまではオブザーバの資格で出席してもらうことにした。

(6) シグマ特別専門委員会内規の改訂

内規(資料9)は作成後、かなりの時間が経っている上、実状に合わない点もあるので再検討したいとの説明があり、田中氏を中心として監査小委員会で検討してもらうことにした。また、前々回の運営委で、原研側の監査小委員に田中氏を選出したが、現内規によれば、運営委々員は監査小委員にはなれないことが後で判ったとの説明があり、このような不都合な点も含めて監査小委で検討してもらうことになった。

7. 学会特別会合

過日、九大で行われた学会のときの特別会合の反省点について議論が行われた。楢山氏よりプログラム作成の事情等について説明があり、討議を行った。今後の特別会合のやり方について多くの意見が出たが、この件については次回にまた議論することにした。

8. JENDL-2 編集促進について

五十嵐氏より、JENDL-2 編集の現状について説明があった、中川氏の出向後、マンパワーの不足や引き継ぎの過渡状態のため作業は余り進展していないとの説明に対して、今後の進め方について次のような意見が出

た。

- 編集の際にチェック&レビューが欠けていたのではないか。
- 評価者とのコミュニケーションが必要である。
- 若い人達をCGに加えてJENDL作成に参加していると云う意識を持たせることが必要である。
- 核データセンターだけの効率化ばかりを考えないで作業を進めて欲しい、等々。

これに対してCG側から編集作業の実状等について説明があり、今後はCGを拡大する方向で個別に意見を聞き対処することにした。

9. 専門部会長の交代

前々回の運営委で、核データ専門部会長及び炉定数専門部会長の交代について提案があったが、それにもとづき、核データ専門部会長に菊池康之氏（原研）、炉定数専門部会長に関 雄次氏（MAPI）が選出された。

また、これに関連して久武氏より、燃料サイクル核データWGの後をどうするか各委員は検討しておいて欲しい。このことを処置した後で核構造・崩壊データ専門部会長を交代したいとの発言があった。これに関連して、次期専門部会長には中嶋龍三氏（法大）が推せんされた。

10. 特殊目的のための核データの調査

飯島氏より、先の運営委で提案のあった標記の件について主旨の説明があった。このような核データについての要望はJENDL-3のアンケート調査でもかなり出されていることが指摘され、ad-hoc小委員会を設け現状を調べることになった。ad-hoc小委員会会長には西村和明氏に依頼することにし、メンバーは小委員会会長に一任することとした。また、今年度中に答申を出してもらうことにした。

11. 運営委議題の提案

五十嵐氏から、運営委員は積極的に議題を出して欲しいとの要請があった。

12. Regional Centerの構想について

五十嵐氏より，Regional Center ができた場合のメリット，デメリットを明確にしておく必要があるので各委員の意見を聞きたいとの話があり，意見交換を行った。その中で，原子力委の長期計画の中に核データのことを前面に出ていないとの指摘があり，事情を調べて対処することにした。また，中国との関係等について意見があった。

13. その他

(1) 五十嵐氏より外国からの帰国報告として，NEA データバンクについて長谷川氏（原研），IAEA Advisory Group Meeting on Nuclear Data for Radiation Damage and Safety について岩田氏（原研）の話を書くことについて提案があり，次回に行うことにした。

(2) 核データ測定の促進について

五十嵐氏より，国際的に見て日本からの測定データが少いことに対し，シグマ委としてどう対処したらよいか検討してみたいとの発言があり，討議を行った。測定の要求を明確にする必要があること，WRENDA と測定者との間にコミュニケーションが少い等の指摘があったほか，日本からの積分測定はかなりあること，また，微分データの測定の学会発表は年々増加している等の意見もあった。

(3) 3rd Intern Symp. on Neutron Induced Reactions （資料(10)）のアナウンスがあった。

次回は12月4日（金）13：30より東海研で行う予定。